学校に約630台のコナラ机を導入することを決定した。うち15年度は137台（中学校737台、小学校640台）を導入する。コナラ学童机は15年4月1日付で宮城県グリーン認定された。

住生活月間でシンポ
空き家問題をテーマに
埼玉県住まいづくり協議会

埼玉県住まいづくり協議会（風間健会長）は16日、埼玉県内で「15年度住生活月間シンポジウム」を開いた。会員企業や一般消費者など244人が参加した。同協議会は、優良な住宅供給による県民の生活基盤安定を目的に、県内の住宅会社と行政・公共団体が設立した。

シンポジウムでは、第1部で「空き家問題の現状と取り組みについて」をテーマに、中本充国土交通省住宅局住宅総合整備課住環境整備室宅地企画係長が講演した。

このなかで、空き家総数が448万戸から820万戸と、この20年で1・8倍に増えた現状が示され、「空き家すべてが問題ではない。賃貸用や売却用住宅でない〝その他の住宅〟空き家率が伸び、ここに問題があるのではないかと見ている」（同）と報告された。空き家のうち、その他の住宅は318万戸、このうち木造一戸建てが220万戸と最多であることを報告した。

さらに、民間と連携した総合的な空き家対策を視野に、2016年度予算概算では、空き家対策総合支援事業に20億円、先駆的空き家対策モデル事業に15億円を要求していることを明らかにした。

また、来年度の税制

ップ等の開催、地域通貨を用いた森林所有者

地域通貨（リネリア、約180店舗地元商店

ホテルに熱源を供給し

全）」をテーマに、防災・危機管理アドバイザーの山村武彦氏が講演した。同氏は「物事の本質を教える、知ることが必要だ」とし、「避難勧告も〝ただいま防災警報が発令されました〟といった分かりにくいものではなく、〝逃げろ〟と言うべきだ」と指摘した。

さらに、非構造部設備の耐震化が課題・重要になっているとし、「揺れを感じた際にはただちに、安全ゾーンに移動すべき」と話した。「東京都内を中心に大型商業施設などで安全ゾーンが設けられていることから、住宅供給者も住宅内に安全ゾーンを設けるべき」と示唆した。

ツ、イペを中心にエクステリア向けハードウッドを販売しており、

ブースには自然素材を使った商品を展示

会場内には同社が取り扱う様々な樹種のウッドデッキが出展されたほか、ベンチなど加工小物も出展した。

また、施工事例やウッドデッキ材の生産工程の写真を展示し、自然素材を取り扱った商品の提案を行った。施主だけでなくホームセンターなどのデベロッ

す」と話していた。

ユーザー・ハピネスを追求
アールシーコア

アールシーコア（東京都、二木浩三社長）は、BESS30周年「ユーザー・ハピネス」調査結果を発表した。同調査は同社の住宅購入者のうち、自宅用に1年以上住んでいるユーザー5975組を対象に7月10日～8月10日の期間、調査を行い、2778件の回答を得た。このうち自宅用に住んでいる23

商品開発の考え方を話す二木社長

ていく姿勢」とBESSブランドの個性派住宅を通じてユーザー・ハピネスを追求していく考え方を示した。

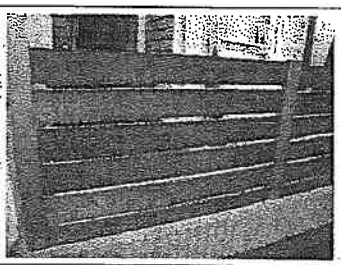
域社会とのかかわり（同2・4倍）、生活全体の満足度（同1・4倍）、子どものネット・携帯メール利用時間はおおむね3分の1、子育ての悩み・不安は半分以下だった。

二木社長はアンケート結果に触れたうえで「ユーザー・ハピネスはカスタマーサティスファクションとは少し違う。お金を払う人ではなく、住む人を大切に考えた。帰納法的な商品開発が多いが、BESSは演繹法で新たな創造、商品開発をし

間伐材活用の塀
港製器工業

港製器工業（大阪府高槻市、岡室昇志社長）は、国産材間伐材を活用したエクステリア材「スーパーフェンス」シリーズに、コンクリートブロック施工タイプの「スーパーフェンスライト」を加えた。

スーパーフェンスはブロック塀代替として


ブロック上に直接施工が可能

間伐材板材を原材料に開発したもので、大阪市の地域創造ファンド2012年度助成事業にもなり、商品化を進めてきた。林野庁の間伐材マーク認定商品でもある。14年度から本格的な販売を開始、地域産材を使用することから、各地の森林組合などとも連携を強化している。

スーパーフェンスは特に劣化したブロック塀が震災等で被災拡大となるケースもあり、軽量で倒壊しても比較的安全な木製の塀として開発してきた。フェンス1枚は幅1800㍉、高さ1600、1800、2000、2400、3000㍉。検間伐材板材（180×1800㍉、24㍉厚）をアルミ製の柱に1枚ずつ差し込み、最後にアルミ製の笠木を付けて完了する。検板材はACQ防腐・防蟻処理ありとなしがあり、撥水剤サーファポアを処理することもできる。耐風圧強度は秒速34㍍相当。

このほど開発した製品は、足元のブロック塀のブロック穴に直接差し込み施工できるタイプで、ブロック上から1000㍉の高さまで施工できる。独立基礎での使用もでき地上高さから1600㍉まで可能。差し込み板は厚み20㍉、溝幅20・5㍉で設計している。出雲市）などで構成するしまねっとWOODは、島根県産材間伐材活用の一環として同社と連携し県産材を使用した製品販売に取り組んでいる。「老朽化したコンクリートブロック塀を木材に替えることで外観が一新する。地元の木材を使えること、簡単施工でき、板材の取り換えや廃棄も容易なことも優位点」と指摘する。